

ICTと農業・地域活性化をテーマにセミナーを開催

総務省東海総合通信局(局長 吉武 久)は、令和元年11月29日(金)、ウインクあいちにおいて、農林水産省東海農政局、愛知県、一般財団法人全国地域情報化推進協会(会長 庄司 哲也)及び東海情報通信懇談会(会長 岩田 彰)との共催により、「地域情報化広域セミナー2019in愛知」を開催し、自治体の農政・農業改良普及事業担当者等12名を含む96名が参加しました。当日は、地域におけるICT/IoTを活用した農業や地域ビジネスなどの事例について3名の方からそれぞれの取組をご紹介いただきました。

株式会社いろどり代表取締役の横石 知二氏から「農業で儲ける決め手は情報と仕組み」と題して、「山に生えている木や葉っぱは「宝の山」だ」と発想を転換して、ICTを活用した「葉っぱ」の受注システムを構築。高齢者でも簡単にタブレットから葉っぱの色や大きさ、枚数など顧客からの注文情報が届き、欲しいものを欲しいときに欲しい人に届けることができる仕組みを創り、地方再生に成功した徳島県上勝町の取組についてご紹介いただきました。「システムを導入しただけではダメ。ICTを使って習慣づけをする。情報と仕組みをつくるのが大切だ」と力説されました。

NKアグリ株式会社代表取締役の三原 洋一氏から「農業IoTで『地域の旬』を繋ぐ、地域共創による農産物流通」と題して、生産地のIoTセンサーからの温度、湿度、日射量、水温などのデータをクラウドシステムで全国の農家と共有し、各地域の「こいくれない(リコピンを多く含んだ人参)」の旬の収穫時期を予測し、最適な時期に収穫する取組についてご紹介いただきました。

飛騨市企画部地域振興課主査の土田 憲司氏から「飛騨市ドローン活用推進プロジェクト」と題して、農薬散布、災害時の迅速な現地確認、トンネルや橋梁の点検、買い物弱者対策、スキー場のドローンパーク化などドローンを活用した様々な取組についてご紹介いただきました。

このセミナーに協力いただいた農林水産省東海農政局生産部生産技術環境課課長の高橋 賛氏からは、ロボット・AI・IoT等の先端技術を活用した「農林水産省のスマート農業実証プロジェクト」について説明いただきました。

参加者からのアンケートでは、「高齢者が利用しやすいプラットフォームを多くの地域に展開していただきたい」、「ICTの技術面やネットワーク環境、導入費用などをもっと聞きたい」などの声が寄せられました。



セミナー会場の様子



いろどり 横石氏



NKアグリ 三原氏



飛騨市 土田氏



東海農政局 高橋氏